



大阪府立大学の思い出と将来への希望

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 穰 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/6893

大阪府立大学の思い出と将来への希望

横 山 穰

私が大阪府立大学に奉職していましたが、1991（平成3）年10月より、1996（平成8）年3月までの4年半の期間でした。着任当時は、学部長が右田紀久恵先生から太田義弘先生へと替わったばかりでした。府大に赴任する以前は約2年半の間、郷里の札幌にあり当時は介護福祉士のみを養成する専門学校日本福祉学院で教員をしていました。関西は学生時代を京都で約6年間過ごしたことから、親近感の持てる第二の故郷といった感じでした。大阪市内には学生時代に時たま足を運ぶ機会があったものの、堺市となると教科書で学んだ仁徳天皇陵をはじめ千利休、与謝野晶子らが頭に浮かぶ程度で、馴染みのない土地でした。私事で恐縮ですが、今でも強く印象に残っていることがあります。着任とともに堺市の津久野にある都市住宅整備公団のアパートに引っ越してき

た当初、アパートの前の石津川は悪臭がして、河岸も雑草が生い茂る未整備の状態でした。また真向かいの泉北ニュータウンに通じる泉北2号線は、深夜になると決まって暴走族（雷族）が出没し、ひどい時には毎夜のごとく大きなエンジン騒音を立てながら、警察の張り込みや取り締まりにも全く動じない有様で、よく夜中に叩き起こされるなど睡眠不足の状態の時もありました。

しかし一方で、府大の農学部の農場があるせいか、とても都会にあるとはいえないほど、牧歌的というか自然の静かさを感じるのどかな環境にありました。特に社会福祉学部の校舎は、比較的大きな池のすぐそばに立地していたこともあり、春になると池の周りに植えられている桜の木が花を咲かせ、とても美しい光景でした。また、キャンパスの周辺には「にさんざい古墳」があり、ストレスがたまった折は、古墳のお堀の周りを歩き回っては気分転換をはかりました。また、暇なことに一度ですが実験のつもりで、キャンパス回りを徒歩でどの位時間がかかるかを試したこともあります。確か早歩きでも30分程度かかったと記憶しています。

さて、私はグループワーク論や医療福祉論を中心にして、社会福祉援助技術演習、社会福祉実習、社会福祉演習、英書講読等を科目担当させて頂きました。在任期間がわずか4年半であったことから、ゼミ卒業生は合計しても7名で、しかも全員が女子学生でした。現在勤務する札幌の北星学園大学は私学であることから、一学年のゼミ生数は通常12名から20名近くにもなる二桁数であり、府大当時のゼミ生数の上限が6名という一桁数は、羨ましいかぎりです。少人数制教育をゼミで行い、しかも卒業論文の指導がゆとりをもってできるという教育環境は実に恵まれていると思います。こうした公立大学の良さをこれからも大事に守り続けてほしいと思います。私は臨床家としての経験をもとに、上記の担当科目を教えていたのではなく、あくまでも日本での大学院生時代の実習体験や、アメリカの社会福祉大学院に留学し実習を通して学んだ経験を生かして教えていました。正直なところ臨床経験（現場体験）の不足から、具体的でかつ実用的な授業内容は十分展開できなかつたと思います。しかし、学生に対しては常々研究・実践という視点から問題意識を育て、理論を理解すると同

時に、理論の実践への応用の仕方を学んでほしいと望んでいました。その姿勢は今でも変わらないと思います。

府大は私にとり大学教員として初めての第一歩を踏ませて頂いた、まさに原点のような存在です。在職中、府大が日本社会事業学校連盟の会長校に選ばれ(1994年4月から1996年3月まで)、しかも事務局を担当することになりました。私は留学経験が買われてか、国際関係特別委員会の事務局としてお手伝いさせて頂きました。折しも国際社会事業学校連盟やアジア太平洋社会事業学校連盟への加盟のあり方をめぐって見直しがなされた転換期にあたり、数度にわたる加盟校へのアンケート調査(質問紙の作成、回収、集計等)や、国内外の諸関係機関や国際関係特別委員への連絡調整などを一人一役で任せられ、今思えば時間や労力等の物理的負担のみならず、精神的な負担が重くのしかかる2年間であったと記憶しています。しかし、こうした府大に課せられた日本の社会福祉教育に対する貢献度の高い社会活動を通して、しかも府大社会福祉学部のよき上司や同僚からのサポートにも恵まれ、微力ながらも府大の発展に貢献できたのは誠に幸いと存じます。府大には、21世紀も引き続いて、西日本に位置する伝統ある福祉系公立大学のトップ校としてのみならず、全国におけるトップ校として優秀な教員スタッフを抱え、有能な研究者や実践家の養成をし続けてほしいものと心から願う次第です。最後に、府大の大いなる躍進と発展をお祈りして、社会福祉学部創立20周年のお祝いのことばに代えさせていただきます。

(北星学園大学助教授)